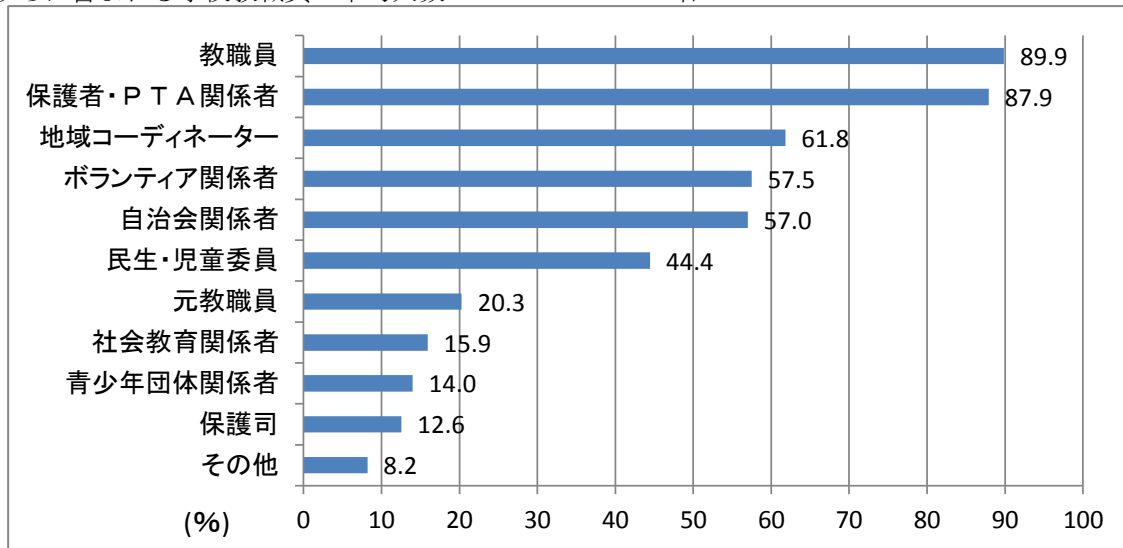


【事業実施校】

★奈良県学校・地域パートナーシップ事業（以下、パートナーシップ事業という）の各校における組織状況について

- (1) コミュニティ協議会（仮称）の平均開催回数 3.4回
- (2) コミュニティ協議会（仮称）の平均人数（最も多い場合） 22.7名
- (3) (2)のうちに含まれる学校教職員の平均人数 5.2名

(4) 構成

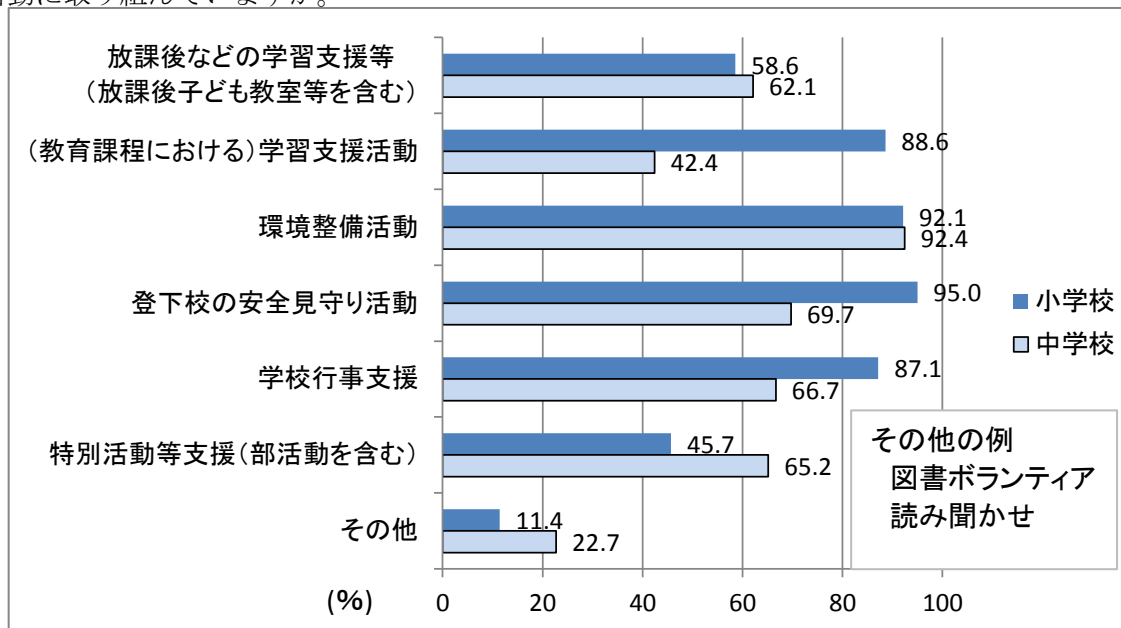


(5) 議題の例
（自由記述）

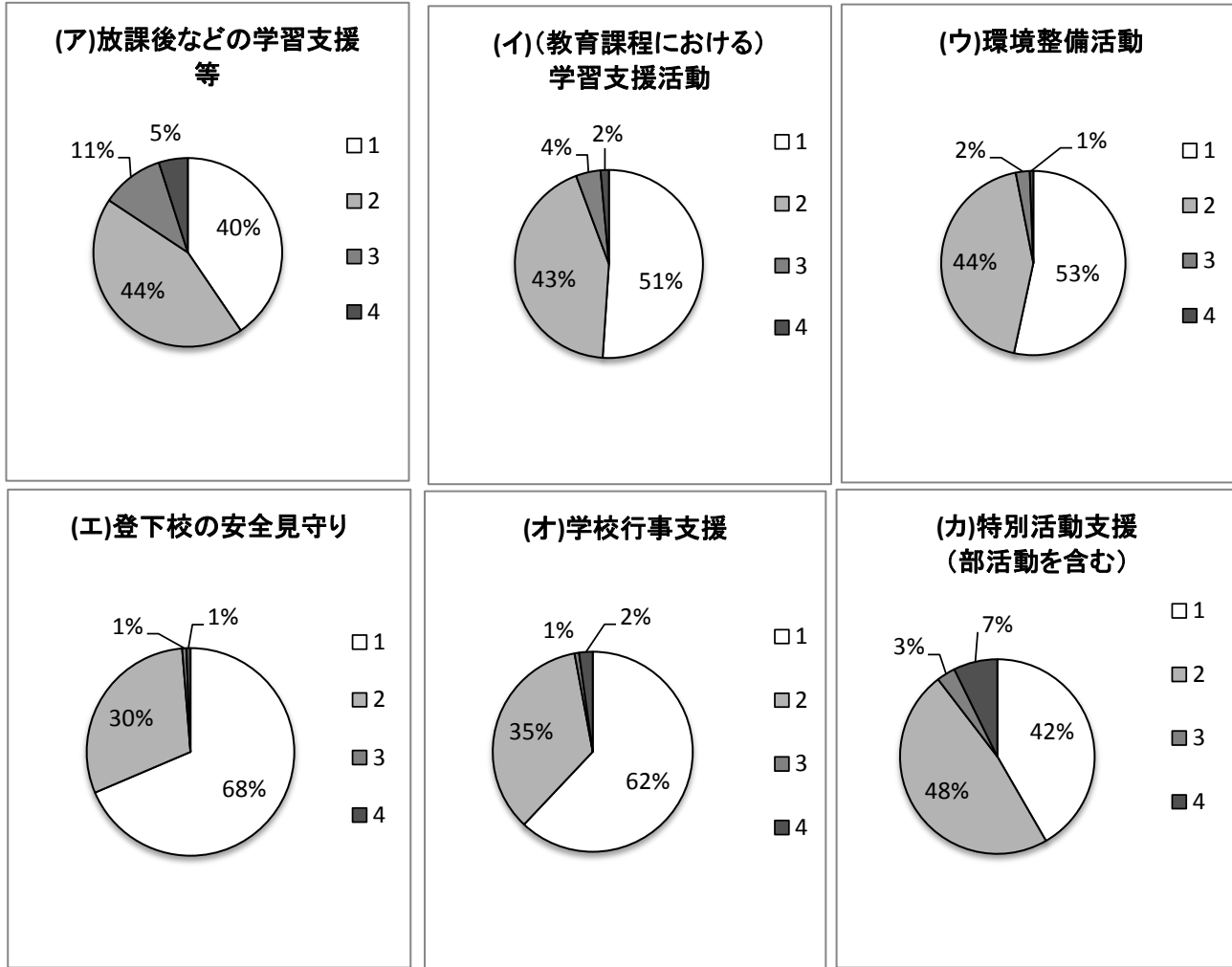
- 年間活動計画、事業計画の検討
- 学校の教育方針、教育活動を説明
- 児童・生徒の様子について情報交換
- 事業の打合せ
- 活動の総括、反省 など

★パートナーシップ事業での取組について

(1) どの活動に取り組んでいますか。



(2)実施したのについて、ボランティア活動は十分にできたと思いますか。
 (1 十分できた 2 ある程度できた 3 あまりできなかった 4 全くできなかった)

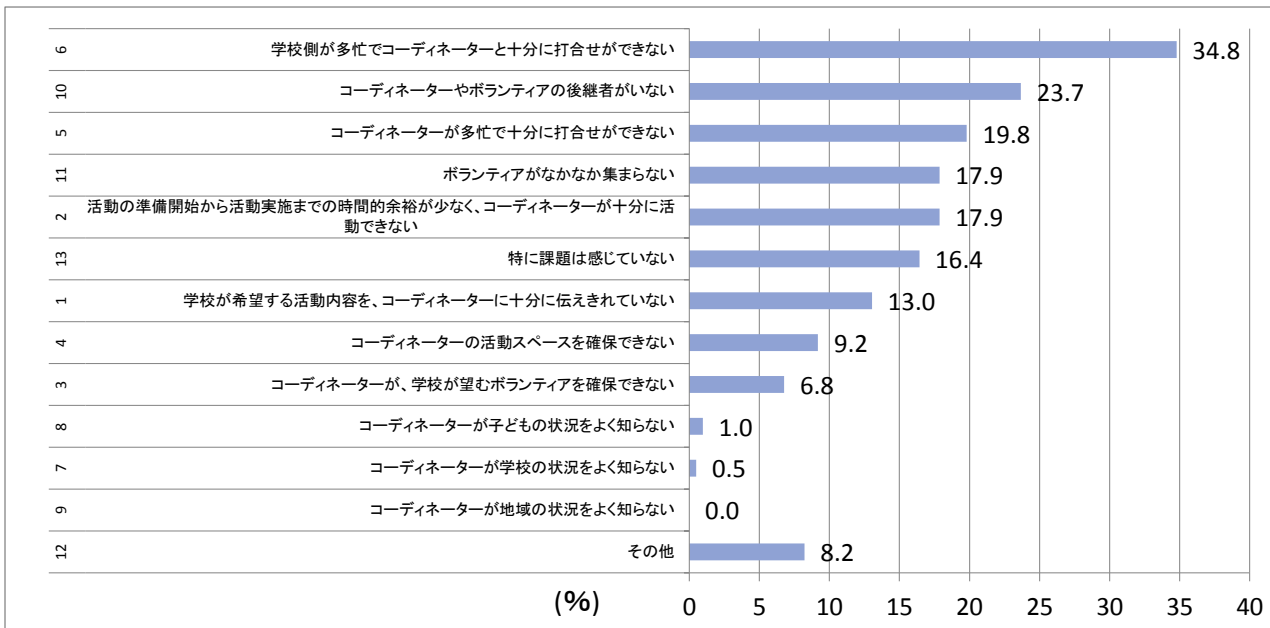


★パートナーシップ事業の効果について

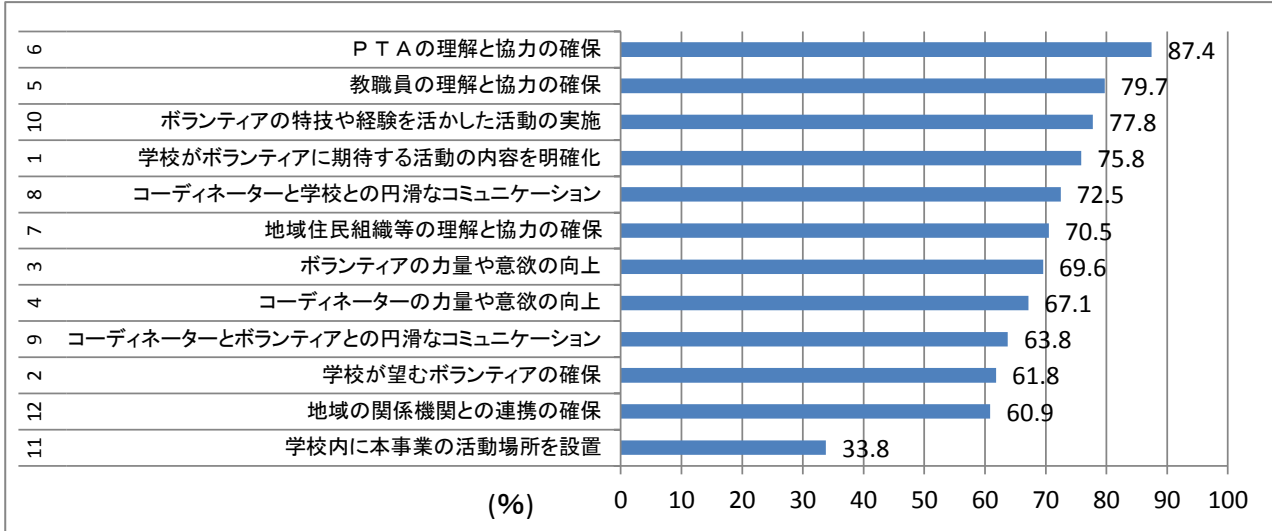
(1)パートナーシップ事業に参加して、どのような効果があったと感じていますか。(P 1 2 参照)

★パートナーシップ事業推進上の課題について

(1)コーディネーターとの連携で感じている課題は何ですか。



(2) パートナースイップ事業を成功させるために、各項目について十分に実施できているかどうかお答えください。
 (できている、少しできていると回答した割合)

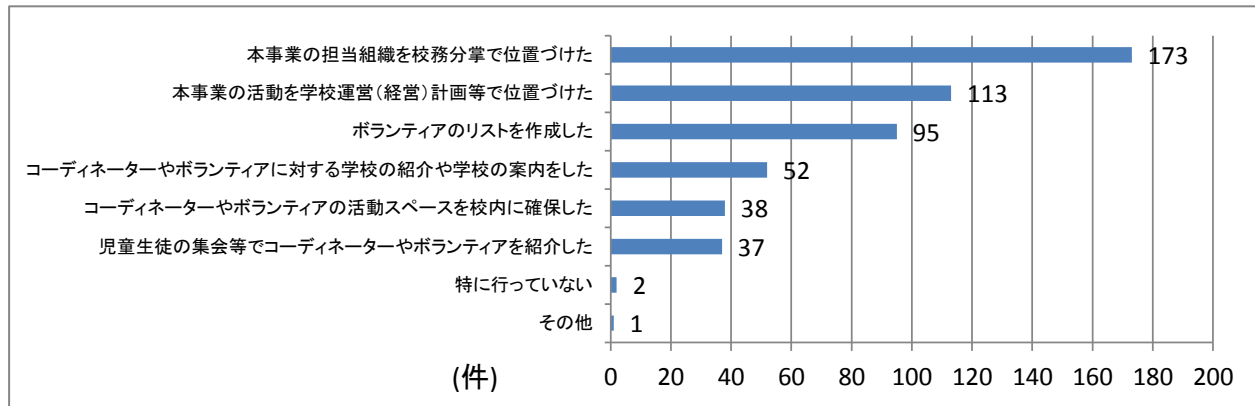


(3) パートナースイップ事業全体を通して、特に苦勞している点は何ですか。(自由記述)

- 教頭、教職員への負担が大きく、多忙感がある
- 地域人材の確保が難しい
- マンパワーの不足
- 学校の要望と地域ボランティアの要望が少しちがう
- 連絡・調整に手間がかかる
- 後継者の不足
- 時間の捻出、確保
- 夜間、休日に熟議する部屋の確保
- バス通学との兼ね合い
- 空き教室がない
- 活動資金の不足
- 会計処理 など

★パートナースイップ事業推進上の工夫について

(1) パートナースイップ事業の実施体制をどのように整備しましたか。(複数回答)



(2) 取組を進めるにあたって、コーディネーターやボランティアとともに、工夫している点はありますか。
 (自由記述)

- ボランティア、コーディネーターとの連絡・情報交換を密にしている
- 取組のあと、ボランティアと反省会をもったり、感想をうかがう機会をもっている
- 事前の打合わせをしっかりと行っている
- お礼の言葉や子どもたちの手紙を届けている
- 活動報告などを広報している など